

熊本県史料 中世編第一

大分・佐賀両県に続き、『熊本県史料』が、県史編纂の一環として刊行されることになった。本巻はその第一巻で、竹内理三氏の責任編集によって県北の四市・四郡の中世史料(細川氏入国の寛永十年まで)七七九通が、次のごとく在地主義・家わけ・編年の様式で詳細な頭註を付して収められている。()内は通数

- 玉名郡(荒尾市玉名市を含む)、伊倉北八幡宮(一)、同南宮(九)、鹿子木(二四)、願行寺(八)、広福寺(一一八)、小代(九四)、西安寺(四三)、寿福寺(一六)、清源寺(四三)、宝成就寺(一四)、野原八幡宮(一)、
- 鹿本郡(山鹿市を含む)光厳寺(三)、光照寺(四)、金剛乗寺(二)、阿蘇品(二)、
- 菊池郡(菊池市を含む)阿部(三〇)梅田氏所蔵(一)、玉祥寺(一)、合志(五)、正観寺(四〇)、菊池神社(一)宗(一)、怒留湯(一五)、仏教寺(二)安永(一)厳照寺(三)

- 阿蘇郡 阿蘇神社(一〇)阿蘇(一〇)北里(三四)小橋(二)西厳殿寺(二〇九)、志賀(二)下村(一)高宮氏所蔵(二)満願寺(一五)三井(二)室原(四〇)

以上見ることく、比較的散在史料が多いが、それだけにこのような形で集成されたことは非常に便利である。かつて大日本古文書(阿蘇家文書)に収められた西厳殿寺文書以外は、いずれも未刊史料であり、中には伊倉北八幡宮文書、阿蘇品文書のごとき今回始めて紹介されたものもある。西厳殿寺文書を除けば、何といつても広福寺文書が質量ともに圧巻である。菊池氏関係の中心文書であり、中世武士団の構造、特にその精神的特質などを知る上で好個の史料である。その他小代文書・鹿子木文書なども中世後期の肥後北部の情勢を知る上で貴重なものである。なお八百余通に上る阿蘇家文書は大日本古文書に収められているせいもあって今回は省かれている。

本巻は、文書の在地主義による編纂であるから、これで中世の肥後北部の関係史料が網羅されているわけではない。しかしさいわいに大分・佐賀など近県の史料集が次々に刊行

されているので、これ等を併せ利用することによつて、本巻も一段とその利用価値を高めることが出来る。しかもこれらの史料集が殆ど全て竹内理三氏の編集あるいは監修になつていることは、利用者にとつて極めて喜ばしいことである。

なお熊本県史料中世編は県南部及び中央部の史料が第二巻・三巻として続刊されることである。竹内氏をはじめ熊本大学の杉本・松本両氏、その他編集委員各位・県当局の御努力に敬意を表するとともに、続刊の早らんことを期待して止まない。

(写真四葉 解題十三頁 目次五八頁 本文七六一頁 五〇〇部限定 一、三〇〇円 熊本県総務部発行) (工藤敬一)

丹生郡誌編集委員会編 福井県丹生郡誌

本郡に關しては、明治四二年に山田秋甫氏の編になる約二五〇頁の『丹生郡誌』が刊行されていたが、今回芦原憲明氏を中心とする丹生郡関係者の手によつて、全く新たな装い